

1. 準備

（製品名・機種型番等は、現時点でバイオバンクが採用しているものを提示している）

- 15 mL タンパク吸着制御滅菌V底遠心チューブ（個別包装）（ザルスタット社）
- CSF フォルスボトムチューブ（ザルスタット）
- プロテオセーブ SS 1.5 mL スリムチューブ（住友ベークライト）



15 mLタンパク吸着制御
滅菌V底遠心チューブ（個別包装）
（ザルスタット）



CSFフォルスボトム
チューブ
（ザルスタット）
※外注検査用チューブ



プロテオセーブSS
1.5 mLスリムチューブ
（住友ベークライト）
※保管用チューブ

2. 採取（病院での作業）

※副作用軽減のため採取には無傷針（Atraumatic needle）を用いることを推奨する。

※研究用検体にはタンパク質低吸着チューブを推奨する。

2-1. 15 mL タンパク吸着制御滅菌V底遠心チューブ（個別包装）に採取。

2-2. 臨床検査部の冷蔵庫に一時保存（保存時間は個別検体情報として記録）。

3. 分離と分注（バイオバンク試料調整室での作業）室温（12℃～28℃）

3-1. 保存している脳脊髄液をバイオバンクに移送（on ice）。

3-2. 4℃で2,330～2,360×g、10分間遠心分離。

3-3. 検体番号ラベルを貼った保管用チューブ、外注検査用チューブ*1に（500μL/tube）分注。

*1 βアミロイド1-42 / 1-40比、リン酸化タウ、総タウ蛋白

4. 保管

4-1. チューブは貯蔵ボックスに並べ、超低温（-80℃）フリーザーで保管。

4-2. 検体管理システムに検体情報を入力。

➤ 採取～超低温（-80℃）フリーザーでの保管は24時間以内に行う。